ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-4	調査位置				北　緯	36 ° 44 ’ 29.4410 ”
発 注 機 関	栃木県日光土木事務所			調査期間	2008-11-07 ～ 2008-11-13	東　経	139 ° 36 ’ 30.5150 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	672.53 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 45.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	7.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	672.03	0.50	0.50		礫混りシルト (M-G)	褐			シルト主体で小礫が混入する。含水小位。		
1	671.28	0.75	1.25		砂礫 (GS)	暗茶			径20～50mm桃程度の角礫主体で、シルト分を若干含む。含水小位。		
2					砂岩 (Ss)	暗灰			GL-1.25m付近まで砂岩とシルト分を若干混入する砂岩の互層で、割れ目の発達がやや多く、コアは礫状に壊れやすい。 GL-3.5m付近までは砂岩で、亀裂少なく長棒状コアを呈する。亀裂は開口し、赤褐色の酸化鉄で汚染されている。 以深は砂岩と若干シルト分を含む砂岩の互層で、層理面に平行した亀裂がやや発達し、コアは礫～岩片状を呈する。 亀裂は開口し、亀裂面は赤褐色に汚染されている。 岩質は堅硬緻密である。		11/07
3											11/10
4	667.93	3.35	4.60								11/11
5	667.43	0.50	5.10		粘板岩 (Sl)	黒			片理が発達し、片理面に沿ってやや粘土化が進行している。下部は砂岩の薄層が介在し小礫状を呈する。 コアは、シルトから小礫状に採取されるが、原位置では比較的良好の岩盤である。		11/12
6					砂岩 (Ss)	暗灰			砂岩と若干シルト分を混入する砂岩との互層で、層理面に沿って割れ目が発達する。 そのため、コアは小礫状～岩片～柱状を呈する。 亀裂は開口し、黄褐色の酸化鉄で汚染されている。岩質は堅硬緻密である。		11/13
7	665.53	1.90	7.00								11/14

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	18	32	6	50／16	>50
1.31					
5.00	50			50／10	>50
5.10					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験